

磐田市

# 桶ヶ谷沼 ビジターセンター



第221号 2022年10月号 だより

開館時間: 午前9時～午後5時 (月曜日 休館)

住所: 〒438-0016 磐田市岩井 315 番地

電話: 0538-39-3022 FAX: 0538-39-3023



## あき むし がっしょう き 秋の虫たちの合唱が聞こえます

桶ヶ谷沼では、秋の虫たちの合唱が聞こえるようになりました。鳴くのはオスだけで、翅をこすり合わせて鳴いてメスを誘っています。代表的な秋の鳴く虫たちを紹介します。



### 【エンマコオロギ】

「コロコロロリー」や「キリリリリー」と鳴きます。漢字では「閻魔蟋蟀」と書きます。以前は食用や薬として利用されていました。



### 【スズムシ】

翅を垂直に立て「リーン、リーン」と鈴の音のように鳴きます。全身は黒ですが触覚は白です。ペットとしてよく飼われています。



### 【マツムシ】

体の色は淡い褐色で、スズムシより少し大きいです。「チンチロリン、チンチロリン」と鳴きます。近年生息場所が少なくなっています。



### 【キリギリス】

昼に「ギーッチョン」と鳴きます。人が近づくと警戒して鳴き声が止まる場合があります。肉食で他の虫をとらえて食べます。



### 【ウマオイ】

体長のわりに翅が長いです。「スイーッチョン」という鳴き声が、馬子が馬を追う声に似ていることから名がつけました。



### 【クツワムシ】

緑色と茶色の個体がいま。す。「ガチャガチャ」という鳴き声が馬具の「くつわ」をはめる音に似ていることから名がつけました。

平安時代、「リーン、リーン」という声が松林を抜ける風の音に、「チンチロリン」という声が鈴の音に似ていたため、スズムシのことを「マツムシ」、マツムシのことを「スズムシ」と呼んでいたという説もあります。

# 第6回自然塾「カメの観察」を開催しました

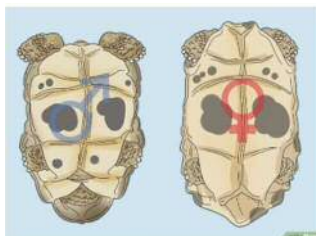
9月11日（日）に山下祐輝さんを講師に招き第6回自然塾「カメの観察」を開催し、自然塾生18人が参加しました。山下さんはテレビ番組「池の水ぜんぶ抜く大作戦」に出演されている静岡大学の加藤英明准教授のもとでカメの生態について学ばれた方です。塾生は講師から、在来種と外来種、ミシシippアカミミガメの概要などについて説明を受けた後、実物のアカミミガメを触りながら甲羅の長さやオス・メスの判別、年齢などについて調べました。



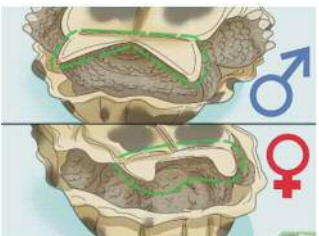
講師の山下祐輝さん

## 「カメの観察」で学んだこと

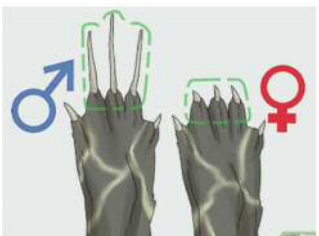
- 外来種とはもともとその地域にいなかったのに、他の地域（国内外を問わず）から人間の活動によって入ってきた生物のことをいう。その中で地域の自然に大きな影響を与える恐れのあるものを侵略的外来種といい、ミシシippアカミミガメもその中に含まれる。
- ミシシippアカミミガメは、1950年代後半にペットとして輸入された。しかし、成長して大きくなり飼いきれなくなって野外に逃がされてしまったものが現在大繁殖している。頭の横にある赤い模様が特徴で日本名の由来である。幼体の日本名は「ミドリガメ」という。
- ミシシippアカミミガメは雑食で寿命はおよそ40年。
- カメの年齢は甲羅の「しわ」の数からわかる。（右の写真は8歳）
- オスとメスの見分け方の一部。（以下の通り）



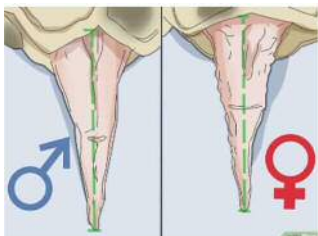
甲羅の長さ  
メスのほうが細長い



尾の方の甲羅の形  
オスはV字



爪の長さ  
オスのほうが長い



尾の長さ  
オスのほうが長い

センター行事のお知らせ：「赤とんぼ調査会」	
日時	10月23日（日） 13：30～15：30
場所	桶ヶ谷沼ビジターセンター、桶ヶ谷沼
対象・募集人数	一般（小学生は保護者同伴、未就学児の参加・見学は不可）・20人 先着順
内容	アカトンボの種類や生態、区別の仕方などの説明を受けた後、桶ヶ谷沼でアキアカネなどのアカトンボの観察を行います。
服装・持ち物	マスク着用、作業ができる服装（長そで・長ズボン）、帽子、水筒、タオル、軍手、長靴、カメラ、虫取り網・虫かご・虫眼鏡（ある方）、カップ（少雨の場合）
備考	新型コロナウイルスの感染状況・天候によっては中止になることがあります。
*申し込みは直接、電話やファックスでビジターセンターへ	